

体制を強固にしていくためには、同窓会が情報を提供する側になることも大切だと考えています。支部活動が活発化することで、こちらの知り得ない地方の情報も集まるでしょうし。今年、改選した代議員には支部の役員の方々にも入っていただいておりますので、徐々にその効果が出てくるのではないのでしょうか。代議員の数も93名から110名に増員しましたし、理事も1名ではありますが増員しております。また、卒業されたばかりの若い方をはじめ、各年代ごとに2、3名の割合で代議員に就任していただいたことも特徴の一つです。これは今までは違った考え方や発想で同窓会を運営していくためだけでなく、大学との協力体制にも良い変化をもたらしてくれるものと信じております。

特に外国語学部ができた93E以降の年代の同窓生は女性の比率が高くなっていますが、今回、女性の同窓生の方々が同窓会活動に関心をもち、代議員になっていただいたことは今後の同窓会活動の広がりにも大きな希望となっておりますね。



学長 若い世代の方々が積極的に同窓会活動に参加していただけるのは、大学側としても心強く頼もしい限りですね。

—今年2月に名古屋キャンパスに学生アメニティ棟「翼館」が完成し、学生の皆さんに精力的に活用されているようですが、その効果は今どう出ていますか。また、名古屋キャンパスに新たな学部の構想などはあるのでしょうか。

学長 「翼館」はまさに学生のアメニティ棟と

して機能しています。評判も良く、学生諸君の交流スペースとして日々利用されています。学生サポート組織として今年4月に、資格センター、学生支援推進センター、10月に教育学習支援センターを開設しました。これらの施設は、キャリアセンターとともに新設した「翼館」の2階と「曙館」の3階にあり、将来の進路やキャンパスライフを力強く支援していくことを目的としています。また、名古屋キャンパスの新学部設置に関してはまだ構想中です。今、本学に足りない分野は何か、社会的にニーズの高い学部は何か、など様々な角度から分析しながら候補を絞り込み、数年以内に新学部を設置する予定です。その際には「翼館」を新学部で活用することを想定しています。理事長がよく言われるように、「大学は学生のためにある」というコンセプトで、より快適な学内環境を整備していく予定です。



小川 私も名古屋キャンパスに伺いますが、年々快適で便利になっていくのがよくわかります。活気が違うな、と常々感じます。同窓会のみなさんにもこの活気を肌で感じていただきたいですね。そのためにも「ホームカミングデー」に是非とも足をお運びいただければと思います。

学長 「ホームカミングデー」だけといわず、同窓生の皆さんには気軽にお越しただけると嬉しいですね。何も用事がないと来にくいのなら、同窓会で「母校を見に行こう」ツアーを企画していただいても良いのではないのでしょうか。私たちとしても、同窓生の皆さんに「今の名古屋

屋学院大学を知っていただく」ことは非常に大切なことだと思っております。

都市型キャンパスの未来とは



—今、私立大学の都心回帰が加速しています。ここ数年以内に名古屋に戻ってくる大学もいくつかあり、競争が激化することも予想されます。都市型キャンパスとして先行する名古屋学院大学としては、どんな未来を描いていますか。

学長 大学の良さというのは、

最終的には教育の質だと思います。利便性はもちろん重要ですが、単に都心であればいい訳ではありません。良い教育を行い、社会で活躍できる即戦力をどう育てられるか。都市型キャンパスであることに満足しないことですね。名古屋学院大学は都市型キャンパスⅡ名古屋キャンパスだけでなく、豊かな自然環境あふれる瀬戸キャンパスもあります。この2つのキャンパスが持つそれぞれの良さを今後しっかりとPRしていくことが、名古屋学院大学の明るい未来づくりにつながると思います。

そのためにも同窓会の皆さんに名古屋学院大学の「今」をもっと知っていただき、PRにもご協力いただけると非常に嬉しいです。そして、もう一つ付け加えるならば、在校生に対し

て先輩として激励をしていただきたい。また就職面での支援もお願いできれば、いくら他大学が都心回帰をして来ても不安要素はありません。

理事長 18歳人口がこれから確実に減少していく未来を勝ち抜くために、都市型キャンパスとしての利便性を活かしたPRをしっかりとしていくことが大切だと考えます。もちろん、瀬戸キャンパスにはスポーツ健康学部とリハビリテーション学部の2学部があり、こちらの特徴も打ち出していく。そのためには同窓会の皆さんの大学運営へのご理解とご支援が非常に大切となります。

同窓生の立場から、大学への要望やアドバースをどんどん出していただき、大学運営に積極的に参画していただけるようになると心強いですね。



小川 今回の座談会も多彩な話題が出ました。同窓会としても母校のPRを同窓生へ、周囲へ、あらゆる機会を通して積極的に行っていくことなど、まだまだ取り組まないといけない課題がいろいろと見えてきました。まさに大学と同窓会の結束力を高めることが大切だという点を痛感いたしました。今までは違う考え方や新しい発想を導入し、大学とともに発展する同窓会であり続けたいと思います。

—ご多忙の中、多岐に渡りお話しいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。